

CS部門 修得課目履修のねらいとヒント

信仰とたしなみ

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会
細目	(笑顔) (1)食事の時に、感謝を言葉で表す。 (2)近所の人々や友達に元気よくあいさつをする。	○ ○	(感謝) (1)今までにお世話になった人々について、家族やリーダーと話し合う。 (2)家族やリーダーに感謝の手紙を書く。	○ ○	(心がけ) (1)お寺や神社、教会などにお参りする。 (2)制服を正しく身につけ、言葉づかいや動作がスマートにできる。	○ ○
ねらい	この課目は、3年間を通じて信仰心を芽生えさせ、うやまう気持ちを養うことをねらいます。この年代では、明確な信仰を無理に持たせるのではなく、足掛かりとしてください。また、日常生活に必要な習慣やマナーを身につけさせ、自立する気持ちを持たせるとともに、自然や物、周りの人々に感謝する気持ちを持たせてください。					
履修のヒント	(1)食事に対する感謝(食前、食後)の言葉を具体的に教えて下さい。 (2) 元気よくあいさつすることから、日常生活に必要な習慣を身につけさせましょう。		(1)周りの人々にうやまい、感謝する気持ちを素直に、具体的な言葉で表現させてください。 (2)お世話になった人々への感謝の気持ちから自然への恵みへの感謝の気持ちや物を大切にすることを習慣づけさせてください。		(1)お寺や神社、教会などにお参りする事で日頃から感謝の気持ちを持つように習慣づけましょう。また、お参り先で、教導職などの話を聞く機会を与えると良いでしょう。 (2)制服を正しく身につけ、うさぎ、しかの手本となるよう身だしなみについて教えてください。	

健康と安全

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会
細目	(運動) (1)自分に合った運動を選び、目標を決めしっかり頑張ったことを家族やリーダーに認めてもらう。	○ ○	(運動) (1)ハイキングに参加し、頑張ったことを家族やリーダーに認めてもらう。	○ ○	(成長) (1)3年生からの身体測定の記録をグラフにする。	○ ○
ねらい	カブスカウトのモットーは「いつも元気」です。運動に親しみ、成長と体力の向上を図り、最後まで努力した喜びを教えてください。					
履修のヒント	(1) 走・跳・投の運動、力試しの運動、器械・器具を使った運動、用具を操作する運動、泳ぐ運動等から自分に合ったものを選んでください。指導者や保護者が、本人に合った目標や難問を示し、挑戦させましょう。うさぎの年代では、家庭でも継続的にできる縄跳び、腕立て伏せ、鉄棒、ランニング等がよいでしょう。1週間以上は続けるよう指導してください。チャレンジ章「4-1.水泳選手」「4-2.運動選手」「4-3.チームスポーツ選手」「4-4.スキー選手」「4-5.アイススケート選手」への導入		(1)ハイキングの楽しさを体験させ、その中で本人にあった目標を提示し、挑戦させましょう。 チャレンジ章「2-3ハイカー」への導入		(1) 学校で毎年測定している記録が、健康手帳等に記入されているので、これを使ってグラフを作らせてください。	

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会
細目	(安全) (1)家のまわりにある交通標識と簡単な交通規則を知り、正しく守る。	○ ○	(事故の予防) (1)自分のまわりで、危険だと思うところを家族やリーダーと話し合う。	○ ○	(事故の対応) (1)消防署や警察署への連絡方法を知る。 (2)緊急時の避難について、家族やリーダーと話し合う。	○ ○
ねらい	文明の進歩とともに、ますます世の中は便利になっていきます。その反面、もし一度間違えが起こると大きな災害をひきおこしやすくなります。何が安全にとって必要なことか、どうしたら安全になるのか、安全対策とはどんなことかを理解させてください。					
履修のヒント	(1)身近にある交通信号と道路標識の見分け方、簡単な交通規則を教え、正しく守れるようにしましょう。互いに譲り合う気持ちが、交通安全につながることを教えてください。		(1)家庭を中心とした身近な場所での事故の予防について教えます。事故の予防には、何が大切なのかを気づかせてください。		(1)できるだけ実際に消防署や警察署を見学してください。非常の場合は、まず、身近な大人に知らせることが大切であることを教えてください。 (2)緊急時にどうしたらよいか、安全にとって必要なことは何かなど、一般的なことを教えてください。	

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会
細目	(清潔) (1)いつも清潔に心がけ、身だしなみを整える。 (洗面、歯磨き、整髪、入浴、手洗い、うがい、爪切り、ハンカチ、鼻紙の携行など)	○ ○	(健康) (1)バランスのとれた食事の大切さを知り好き嫌いをしないで食べる。	○ ○	(救急) (1)救急箱の中にあるものの種類と用途について知る。 (2)鼻血、きりきず、やけどをしたときの初期の手当てができる	○ ○
ねらい	健康を保つために必要な習慣を身につけさせることからはじめ、健康を保つ食事、救急時の救急箱の必要性、簡単なけがの手当てと発展させ、どうすれば健康でいられるかを考えさせる。					
履修のヒント	(1)習慣として身につくまで根気強く続けることが大切です。集会の時にも、テーマに合わせて時々点検するのもよいでしょう。		(1)体に必要な栄養をわかりやすく教えてください。そして、好き嫌いをしないで食事をすることが大切であることを理解させます。		(1)救急時のために救急箱が必要であることを教えてください。 (2)小さなけがの時などは、自分で手当てできるように指導してください。	

技能と野外活動

区分	うさぎ	家庭集会	しか	家庭集会	くま	家庭集会
細目	(計測) (1)自分の足の指先からかかとまでの長さ、手の親指から小指までの長さ、両手を広げた長さを調べる。	○ ○	(計測) (1)自分の体を使って、いろいろなものの長さを測る。	○ ○	(計測) (1)自分の歩幅を知り、50mを歩測する。	○
ねらい	身体の各部の長さを知り、日常生活やカブスカウト隊の隊、組活動に活用させるように指導すると良いでしょう。					
履修のヒント	(1)細目に示されている各部の長さを測定し、いろんな計測に役立つことを教えてください。		(1)自分の体を使って、日常生活及びカブスカウト活動の中で、実際に使ってみることでスカウト技能に触れさせ、計測の理解を深めさせてください。		(1)カブスカウト隊の集会やハイキングなどでスカウト技能として取り扱い、プログラムとして活用してください。	

区分	うさぎ	家庭集会	しか	家庭集会	くま	家庭集会
細目	(なわ結び) (1)ロープを使って、8の字結び、はな結びができる。	○ ○	(なわ結び) (1)ロープを使って、本結び、引きとけ結び、一重つぎができる。	○ ○	(なわ結び) (1)ロープを使って、もやい結び、ふた結びができる。	○
ねらい	なわや糸は、古い時代から使われています。そして、それらが生活の場に使われはじめると、その用途に適した結び方が考えられ、伝えられてきました。なわ結びは、結び方を覚えさせるだけでなく、用途に適した結び方が思いつくよう指導するとよいでしょう。この課題では、指先を器用にすること、がまん強く練習することもねらっています。					
履修のヒント	(1)日常の生活の中で、靴のひもを結ぶ機会等を通じてなわ結びに親しませてください。組集会や隊集会で、ゲームとして扱うとよいでしょう。		(1)国旗を掲揚ロープに結ぶなど、実際の場面で行なったり、また隊集会や組集会のプログラムの中で活用すると良いでしょう。		(1)人を救助する時など、実際の場面を想定して行ったり、また隊集会や組集会のプログラムの中で活用すると良いでしょう。	

区分	うさぎ	家庭集会	しか	家庭集会	くま	家庭集会
細目	(工作) (1)小刀を正しく使って、鉛筆を削る。	○ ○	(工作) (1)小刀、のこぎり、金づちなどの道具を正しく使って物を作る。	○ ○	(工作) (1)生活に役立つものを考え、道具を使って作る。	○ ○
ねらい	物を作る楽しみは、道具の使い方の習熟によって倍加されます。それぞれの目的によって道具が違います。材料に適切な道具を選んで、安全で正しい使い方ができるようにしてください。また、どんな物を作ると役に立つかを考えさせ、創造力伸ばしてください。					
履修のヒント	(1)小刀の安全な使い方を指導します。そして、実際に鉛筆を削らせてみて、道具を安全に使うことは生活に役立つことであると知らせて下さい。 チャレンジ章「3-4工作博士」への導入		(1)道具の安全で正しい使い方とはどういふことを教えます。実際に、役立つものを作らせて下さい。作ったものを使ってプログラムを企画するのも良いでしょう。 チャレンジ章「3-4工作博士」への導入		(1)うさぎやしかで覚えた道具の安全で正しい使い方を活用します。材料にも工夫させてください。生活に役立つもののヒントを与えたり、集会で模型を使ったプログラムを企画するのも良いでしょう。完成した喜びを経験させてください。 チャレンジ章「8-4工作博士」への導入	

区分	うさぎ	家庭集会	しか	家庭集会	くま	家庭集会
細目	(表現) (1)組で決めた物語をスタンツにして、それに参加する。	○	(表現) (1)組で決めた物語をスタンツにして、その衣装や道具を考え、隊集会で発表する。	○	(表現) (1)組で決めた物語をスタンツにして、その動きやせりふを考え、隊集会で発表する。	○
ねらい	ここでは、表現力を伸ばすことを目指します。表現力の養成は、社会に出た時に、その人やその人の立場を理解してもらったり、リーダーとして多くの人々の協力をあおぐ上で非常に大切なことです。スタンツを通じて、色々な表現を身につけましょう。また、ストーリー性のある物語を体験することで、プログラム展開の楽しさにつながることをねらっています。					
履修のヒント	(1)組の一員であることを理解させるとともに、スタンツの中で、自分を表現できる機会を与えましょう。 チャレンジ章「5-8演劇家」への導入		(1)組の一員であることを理解させるとともに、スタンツの中で、自分を表現できる方法を考えさせましょう。 チャレンジ章「5-8演劇家」への導入		(1)物語のストーリー性を考えさせ、その中でスタンツに出てくる各々の立場での表現方法を考えさせましょう。 チャレンジ章「5-8演劇家」への導入	

区分	うさぎ	家庭集会	しか	家庭集会	くま	家庭集会
細目	(観察) (1)ハイキングに参加して、自然の中にある5種類の色を見つけることができる。	○	(観察) (1)野外で、リーダーの指定した自然のもの(植物や昆虫など)を10ヶ見つけることができる。	○	(観察) (1)ハイキングに参加して、自然の中の興味あるものを観察し、記録をつける。	○
ねらい	人間は、自然から大きな恩恵を受けています。実際に野外に出て、自然に親しむことや観察することなどから、自然を愛する心を育てます。					
履修のヒント	(1)野外で、自然に対して興味をもたせるように、して下さい。自然の中で、スカウトの選んだ色の個性を尊重してください。 チャレンジ章「2-2自然観察官」への導入		(1)スカウト技能である観察力を養うために、見つけたものを観察し、メモなどをとらせてください。 チャレンジ章「2-2自然観察官」への導入		(1)深く観察させるために、特徴をメモしたりスケッチさせたりして記録をつけ、集会などで発表させると良いでしょう。 チャレンジ章「2-2自然観察官」への導入	

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会	
細目	(野外活動) (1)自然を利用したゲームや活動をする。	○	(野外活動) (1)野外料理を体験する。	○	(野外活動) (1)ハイキングにもっていくもののリストを作成し、組のみんなに紹介する。 (2)ボーイスカウト隊のハイキングに1回以上参加する。又は、選択課題(チャレンジ章)のハイカー(2-3)を修得する。 (3)ボーイスカウト隊のキャンプに1回以上参加する。又は、選択課題(チャレンジ章)のキャンパー(2-4)を修得する。 (4)くまカウトのみのキャンプを1泊経験する。	○ ○ ○ ○	
ねらい	野外で活動を通じて、自然に親しみ、身体を強くさせるとともに、野外活動への準備が自分自身でできるように指導してください。 くまでは、ハイキングに必要なボーイスカウトの基本的な技能を育てます。 くまでは、ボーイスカウト隊への上進に向けて意欲を高めるとともに、キャンプを通じて野外への興味を持たせます。						
履修のヒント	(1) 組や隊での野外活動で実施します。自然物を利用したゲームや表現活動を取り入れるとよいでしょう。		(1)料理を作って食べるだけでなく、野外料理を作るには、事前の準備が大切で、準備と後片付けまでを体験させてください。 チャレンジ章「5-4料理家」への導入		(1)ハイキングにもっていくものを自分で決めてリストを作成し、組のために活用させてください。 チャレンジ章「2-3ハイカー」への導入 (2)ボーイスカウト技能を活用した、ボーイスカウト隊のハイキングを体験させてください。 (3)ボーイスカウト隊の隊長と良く相談し、安全に留意し、ボーイスカウト隊の班の一員として体験させてください。 (4)上進に向けての意欲が高められるようにしましょう。団の支援を受けて実施してください。		

社会生活

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会	
細目			(暮らしのマナー) (1)電車、バスなどを利用するときのマナーを知り実行する。	○ ○	(暮らしのマナー) (1)ゴミの分別方法を知り、家庭や集会で実行する。	○ ○	
ねらい	自分たちの生活は、自然環境や地域の人々・地域社会等を踏まえたすべての社会環境のなかで成り立っています。地域社会の一員としての自覚を育てるとともに、社の中で生活するためのルールや自分たちの生活が自然環境に与える影響を考えさせるようにしましょう。						
履修のヒント			(1)隊で電車やバスを利用して出かけるプログラムの時等には、事前にリーダーからマナー等について指導するようにしてください。 チャレンジ章「1-2市民」への導入		(1)各自の家庭での生活が自然環境に与える影響を考えさせてください。一人ひとりの小さな行動が積み積もって大きな結果を及ぼすように、各自の責任ある行動が大切であることを指導してください。 チャレンジ章「1-6自然愛護」への導入		

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会	
細目	(役に立つ) (1)自分ができる家の中の仕事を、家族と相談して決め、実行する。	○ ○	(役に立つ) (1)美化運動や募金活動に仲間と一緒に参加する。	○ ○	(役に立つ) (1)ビーバースカウトや年少スカウトのお世話をします。	○ ○	
ねらい	身近なところから、家族の一員、社会の一員として、自分でしなければならないことを考え、積極的に自分の役割を果たすことができるようになることをねらっています。						
履修のヒント	(1)家族の一員として家庭で役立つことを話し合ってください。やさしい仕事から期間を決めて実行させましょう。 チャレンジ章「1-7手伝い」への導入		(1)隊や組の活動以外に、地域での清掃活動や募金活動に参加したり、スカウトの日などを機会に行なうのも良いでしょう。 チャレンジ章「1-2市民」への導入		(1)団内で他のスカウトのお世話をすることで、社会のために役立つことの大切さを教えて下さい。		

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会	
細目	(日本の国旗) (1)国旗を大切に取り扱い、正しくたたむことができる。	○ ○	(日本の国旗) (1)国旗の歴史を知る。	○ ○	(日本の国旗) (1)集会などで、国旗を掲揚柱に掲げることができる。	○	
ねらい	世界の国には、各国をあらわすしるしとして旗があります。世界の一員としての自覚を育て、そのシンボルである旗を大切に扱う気持ちを養うことをねらっています。スカウト活動は政治的に中立です。ですから国旗に対して敬意を払わせることは、ナショナリズムを高揚するためのものではありません。国民として、国のシンボルである国旗に対して敬意を払い、また外国の国旗も大切にするという、きわめてシンプルな考え方をしています。						
履修のヒント	(1)集会で国旗について教え、大切に扱う気持ちを持っていきましょう。 正しいたたみ方は実際にリーダーが見本を示してください。		(1)集会で国旗の歴史について話をしてください。		(1)掲揚柱に下から掲げる方法や上で開く方法、降納の方法ができるようにしてください。 セレモニーの時に、くまに分担するとよいでしょう。		

区分	うさぎ	家庭 集会	しか	家庭 集会	くま	家庭 集会
細目	(世界の国々) (1)10か国以上の国名を知る。	○ ○	(世界の国々) (1)まわりの人から世界の国々について の話しを聞き、まとめて発表する。	○ ○	(世界の国々) (1)自分の知っている国の中から、一つ の国を選んで、その国について発表 する。	○ ○
ねらい	私たちは国際社会の中で、世界の国々と深いかわりをもっています。海外の国や世界の現状を知ることは、しだいに世界への関心を深め、さらに国際的な視野でものを見る目を育てていきます。そこから、国際親善、国際交流、国際理解へと関心がひろげるようにしましょう。					
履修の ヒント	(1)国名を調べるだけでなく、集会では、国名と国旗や首都を結びつけたゲームを行うことも考えられます。 チャレンジ章「1-1国際」への導入		(1)話しを聞くことで世界への関心を深め、自分で理解できたことや興味を持ったことについて発表させてください。また、多くの国々で自分達と同じようにスカウト活動していることを知らせてください。 チャレンジ章「1-1国際」への導入		(1)選んだ国の文化や習慣、日本との関わりを調べ発表させてください。また、調べたことから、世界への関心を深め、国際的な視野を広げられるようにさせてください。 チャレンジ章「1-1国際」への導入	